



若井 敬一郎

一般社団法人東北経済連合会 副会長

津軽海峡交流圏の実現に向けて

3月14日、北陸新幹線が開業した。

連日、新聞やテレビ、雑誌など、さまざまな媒体で金沢や富山、その先の福井の観光名所、食、文化が取り上げられている。新幹線を利用した観光やコンベンションの開催など、北陸に目を向けた情報の発信は、当分の間続くことだろう。

北陸に注目が集まる中、私どもが準備を着々と進めて行かなければならないのが、来年3月に開業を迎える北海道新幹線開業対策である。

我が青森県にとっては、2002年の八戸駅開業、2010年の新青森駅開業に次いで、3回目の開業となる。北陸新幹線のような新鮮なイメージはないまでも、本州と北海道が新幹線で結ばれるという大きなインパクトを最大限に活用するとともに、今回の開業で設置される「奥津軽いまべつ駅」や北海道の「木古内(きこない)駅」という、新青森駅と新函館北斗駅の間に生まれる2つの新たな駅にも着目したい。そして、今年7月に青森市で開催する「全国宣伝販売促進会議」をはじめさまざまな場面で、まだまだ知られていない本県と北海道道南(渡島・桧山)の魅力をアピールし、旅行者の目に止まる旅行商品が生まれるよう努めたいと思っている。

また、縄文時代から、人々が海を渡り交流をしてきた太古からの歴史物語も、旅行者にアピールしていきたい。

これまで青森と函館の移動時間は約2時間であったが、開業後は最速で57分、平成30年には39分となることが予定されている。

これまでの移動時間から見ると大幅な時間短縮となり、この短縮効果を活用して、青森県では、北海道道南との「津軽海峡交流圏構想」を策定している。

交流圏の人口は、約180万人、総生産額約5兆8千億円、観光客数約4千4百万人という圏域であり、東北では仙台圏域に並ぶエリアとなる可能性がある。

今後は、観光、経済、医療、教育、文化などで連携を深め、人々が気軽に往来する環境を実現することで、地方の大きな課題である人口減少を抑える可能性もあり、この構想実現に、私も期待を寄せている。現在、道南の復刻米を使用した日本酒や青函コラボスイーツ、本県と北海道の銀行による「青函活性化ファンド」の設立など、双方の強みを生かした活動が数多く誕生している。

北海道新幹線開業まで、約1年。今、取り組まなければならないことは、観光振興による交流人口拡大が最優先ではあるが、一方では、両地域が連携した新たな産業が生まれ、両地域がなくてはならないパートナーとなる必要があると思っている。

青函トンネル開通から26年が過ぎたが、当ても青函交流が話題にはなったものの、経済交流に結びつくには至らなかった。

しかし、今回の開業は、時間的距離が大幅に短縮されることから、交流圏確立には、より現実的な時代を迎えたとの感覚を強く持つ。

津軽海峡交流圏が現実化し、その先の札幌延伸の際には、北海道と東北全体が一つとなる新たな交流圏プロジェクトが生まれることも、夢のあることではないだろうか。

(青森県商工会議所連合会 会長・わかい けいいちろう)